



〔撮影場所;門司区門司港〕

クスノキ科 クスノキ (樟、楠) 常緑広葉高木 樹高15~25m

我国に分布する常緑樹で最大の巨木となる樹木の一つ。各地で『県や市の木』とされ、名木とされているものが多い。春先3月から5月にかけて新しい葉が出て古い葉のかなりが落葉する。薄緑や幾分赤味がかかった新芽が全体を覆い、夏7~8月にはそれが鮮やかな緑となり、やがて秋から冬にかけて濃い緑となる。他の常緑樹とは違う色彩変化を見せる。特有の香气あり。抽出して得られる樟脳は防虫剤等薬剤、フィルム、セルロイド、火薬などの原料となり、また船材、建築材等用材としても利用される。同科タブ、ヤブニッケイ、ニッケイなど共通の匂いであるが、クスノキが一番薬品臭的である。(但し、感覚に個人差がある。)



公園空間における自然樹形

通常は太い幹と水平に広がった主枝、下枝もよく発達し全体に球形となる。この木の場合はまだ樹齢が若く幹、枝とも太くない。街路空間ではなかなかこのような樹形は形成できないが、本来1本の木で相当の緑量となる樹木である。



新芽の様子

街路樹としての代表的路線

門司区 県道東本町線

小倉南区 幹線5号線、国道322号

八幡西区 香月直方線

小倉北区 三萩野魚町線、愛宕菜園場1号線、浅野町愛宕線